

遊文通信

vol. 10

“国際ブックフェア” & “国際電子出版EXPO”を見学

7月8日、関西地方の梅雨明けが発表されたその日、私たち遊文舎一同は社員研修へ向かいました。行き先は東京お台場。翌9日は思い思いの自由行動を楽しみました。



節電対策まっただ中の品川駅を後にし、バスに揺られて東京ビックサイトに着きました。その大きさに圧倒されつつ、待ちに待った入場です。

まずは「東京国際ブックフェア」へ。そこには興味深いブースが数多く並び、資料をもらったり、話をきいたり。一つひとつの説明は割愛させていただきますが、印刷技術や加工技術も含め、本のみならず印刷物全般の知識を深めるきっかけを得ることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、あるブースでは私が装丁を担当させていただいた本を発見！これにはテンションが上がりました。

次に向かった「国際電子出版 EXPO」。ここは電子出版に特化した専門展で、まさにこれからの業界。熱気と活気、そして期待にあふれた空間がそこにありました。私たちが業務で使用しているアプリのメーカーも参戦し、アピール合戦を繰り広げていました。その中でも、AdobeのADPS（Adobe Digital Publishing Suite）とQuarkのApp Studio・モリサワのMC Magazineは見応え充分でした。

早速それぞれのデモに参加し、実際に体験させてもらいました。そのデモや内容について、“現状とそれぞれ

の可能性”についてスタッフに話を聞いてみました。「まだまだこれからなんです……。まだ決まっていないんです。どうなるかわからないんです。」という言葉は何度となく繰り返す各ブースのスタッフさんと苦笑いしながらも、多々ある情報を吸収することができたと思っています。

「まだまだこれからなんです」の言葉通り、この分野は今まさに本格始動したところなんだと深く感じます。今回学んだことをしっかりまとめ、今後も常にアンテナを立てていようと思います。そう遠くないいつか、お客様の要望があったときには「できますよ！」なんて言えるように……。

(記：なりまつ)



栄光の 架け橋 第10回

第10回は生活協同組合エスコープ大阪でワーカーズコレクティブとして活躍されているバックプランニング様にお話をうかがいました。

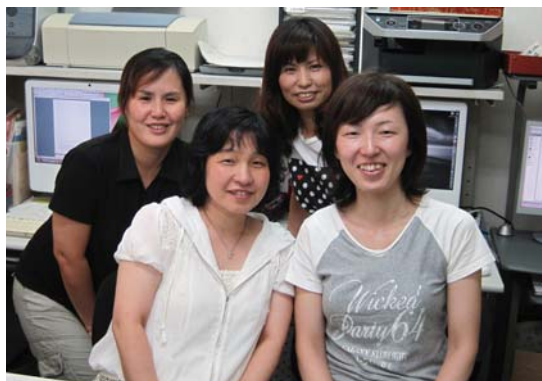
—バックプランニングの活動についてお聞かせ下さい

通称「バック」と呼ばれている私たちの本名は「ワーカーズ・コレクティブ バックプランニング」。さらに「ワーカーズ・コレクティブ」は「ワーカーズ」あるいは「ワーコレ」とも呼ばれ、「W.Co」と表記されています。「W.Co」は「(株)」のようなもので、事業の形態を表し、雇う雇われるという関係ではなく、全員で出資し労働し運営しており、基本的には営利を目的にしていません。かと言って、フリーランスの団体というわけではなく、NPOでもなく、1980年代後半からある、少し説明が難しい働き方です。全国で、463団体、約12,000人が働いており、私たちも「W.Co.近畿連絡会」という連合を通して全国の仲間とつながっています。

バックプランニングは今年で設立15周年。メンバーは全員、生活協同組合「エスコープ大阪」の組合員で、生協の注文カタログや機関紙を編集・作成することを目的に起業しました。その後少しずつ、地域に必要とされる活動・事業団体のニュースレターやチラシ・ポスター・リーフレットなどに事業を広げてきました。

—特にどういう点でやりがいを感じますか

クライアントさんの要望を聞き出し、情報を集め、少しずつ目に見える形にし、最終的にきちん



バックプランニングのみなさん（後列右から代表の西村さん、鍛冶さん、前列右から湊さん、原井さん）

とした印刷物に仕上がったのを見ると喜びを感じます!!

—遊文舎の印象はいかがですか

ただ刷るだけでなく、システム提案などでもできるところがすごい!

ネット印刷にない、きめ細かい対応がありがたいです。

—今後遊文舎に期待することは

出来上がりデータの共有ができればうれしいですね。特に注文カタログや機関紙で。

あとは、近藤さんのストレートパーマがもう一度見たい! かな!?

(聞き手: こんどう)



だーくんの 趣味を語れよ!

Level.10

僕、『だーくん』の趣味はゲーム。というわけで、今までに夢中になったゲームの思い出なんかをなんとなくはなしに書いていこうと思います。

いよいよ、暑くなってきましたね。この、節電と騒がれる中、ゲームを紹介するのも何か憚れるような気もしますが、10回目ということで今回はいよいよもって、この超大作を。

「DRAGON QUEST」



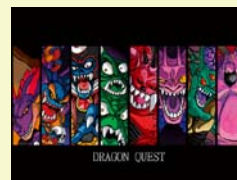
俗に言う「ドラクエ」です。また、ゲームにRPGというジャンルが存在しなかった時代に現れた伝説のソフト。全てのRPGは、このゲームから始まったといえるでしょう。

全ての基本を叩きこむ「1」、仲間の概念を持たず「2」、その後の作品にストーリー性を持たせたシリーズ最高傑作と名高い全ての始まり「3」、仲間一人ひとりにスポットを当て、人生に導きというものを教えてくれる「4」、幾多の困難、苦難を乗り越える主人公の人生に誰の背中を見るのか「5」、夢なのか、現実なのか、本当の世界を探す「6」、とにかく長い! 最初の戦闘まで2時間かかる「7」、RPGとは本来こうあるべきだと主張するようにPS2に満を持して降臨した「8」、すれ違い通信という新たな可能性を示した「9」。

「1」「2」「3」、このロトシリーズの順番は、「3」「1」「2」となっていますが、「4」「5」「6」、いわゆる天空シリーズは、「3」「6」「4」「5」となっているのではないかと思います。「3」の上の世界と下の世界で分かれているみたいですね。

何故そう思うかは、スペースの都合上割愛します。

何はともあれ、これをせずしてゲームは語れないということです。



営業と業務。お客様との橋渡しをする生産管理。遊文舎の心臓部が日々動いています。

●Macを普段使っているデザイナーさんはWindowsは手こずりませんか？

今でも制作現場(デザイン)ではMacが主流ですが、最近Windowsマシンに触る機会が増え、これが困ったもんです。起動ぐらいはわかるんですが、カナ/英数の切り替え、アプリの切り替えや強制終了など初歩的なことがMacではわかってても、Windowsは全くわからないのです！共通のアプリも最近増えてきたので、これからもっと触る機会も増えるでしょうね…、大変だ～！



●送ります！

昨今はお客様との校正はメールが主流ですが、主にメール添付で校正紙をPDFデータにして送ります。

このPDFが写真が多いとやたらとデータ容量が重くなり、メールサーバーによってはMAILER-DAEMON(メールデーモン)で送れないこともしばしば！データを軽くすると画像が粗くなったりと校正に支障をきたす。よくあるのが公共関係になってくると最大2MBぐらいまでしか送れないこともある、こんな時はファイル送信サービスを利用するに限るが、これもお客さんはややこしいとかで駄目なケースもありました。

いつぞや300ページぐらいのカatalogを50回ぐらい分割してメールで送ったこともありましたが、これではプリントして直接持っていったほうが早かったと…、気付いた時は遅かった…！

●色んな色のお客様にめぐり逢えます

印刷通販サイト「すぐスール」ではお客様が直接、来社されて打ち合わせするケースがよくあります。通常お取引のあるお客様とは違って、大阪ならではの色々な色のお客様が来社されます。

時にはモデルのような彼女と同伴で来られる筋肉マンみたいなムキムキの整骨院の先生、体中から滝のような汗が吹き出てハンカチが手放せない自称漫画家の先生、Tシャツの袖口から彫り物が見え隠れしているちょっと厳ついが女性声のヘリコプター操縦士さん、某有名大学の著名な教授先生、めちゃくちゃ綺麗な優雅なエステシャンなどなど色々なお客様にめぐり逢えてとてもいい経験になってます。

おかげさまですぐスールも好評を頂いております！

●現在ヘルニア進行中！

業務と関係ない話で恐縮ですが、仕事からデスクワークが主体です。当然椅子に座っている時間が長くなるので、最近下半身が悲鳴をあげました。

診断では椎間板ヘルニアからくる座骨神経痛、症状は両下肢の痺れとつっぱり感があります。我慢できない痛みではないですが、痺れの範囲が日々拡大中です。治療は手術かりハビリしかないそうで特効薬はないそうです。とりあえず週に3日通院して腰の牽引と電気療法のリハビリを続けています、でも痛みがひどいと手術も…！。

原因は運動不足です、発症してからでは遅いです、防止するためには日々の基礎運動が大切です。これから中年域に達する皆様、くれぐれもお気をつけてくださいませ。

(記：浮き袋)

今月の一押し本



みなさんこんにちは！新旧問わず、私キパノスケのまったくの主観に基づき、お勧め本をどんどん紹介させていただきます。ご感想などお聞かせいただければ幸いです。

増田 俊也

『シャトウーン ―ヒグマの森』

宝島社 ¥1,680

今回は極限状態の和製サバイバル小説の傑作を紹介します。

みなさんは「地上最強の生物」はなんだと思いますか？

物理的に対決する機会があれば圧倒的に体躯の大きい鯨なのかな？といった認識がこの本を読めばまず変わります。

著者は「地上最強の生物」はヒグマ、それも冬眠の巣籠もりに失敗し、飢えて凶暴化したヒグマ、別名「シャトウーン」だと定義しています。

たまに山から降りてきて人を襲う月の輪グマは体重せいぜい80キロ程度、それに比べてヒグマは400～500キロ。トラックに轢かれて下敷きになってもそのトラックを軽々と持ち上げて自力脱出する怪力無双、時速100キロ近いスピードで走る乗用車に軽々と並走する俊敏さ。木登りは猿より

うまく、夏になると海を泳いで自力で鮭を捕まえるヒグマ。一旦狙われたら人間は絶対に逃げられない。ライオンやトラなど子猫のように一撃で倒してしまうだろう。そんなヒグマ、しかも凶暴化したシャトウーンにもしロックオンされてしまったら……

北海道大学で森林研究に従事する主人公(女性)は、その家族、仲間、不穏な蘭入者とともに真冬のブリザード吹きすさぶオホーツクの原生林の中の研究所に閉じ込められる。人間の仕事とは思えない惨殺死体が発見される。その犯人がシャトウーンだとわかる頃には一人、また一人と餌食になってゆく。主人公の運命はいかに！

手に汗握りますので是非ご一読ください。(キパノスケ)





(第1話の7) (この小説はフィクションです)

—前回までのあらすじ—

新入社員の小野は部長の坂辺に連れられて、取引先の多々美屋食品を訪問した。そこで急遽キャンセルになった社員旅行のプランを譲り受ける話を持ちかけられる。次の日、小野が出社すると生産管理部の野田原以外は事務所には誰もいない。小野は平日の朝にいきなり誰も出社していない状況に憤慨し、野田原に会社を辞めるといい事務所を出ていった。ちょうどその時事務所に2度目の電話が鳴った。

「はい、翔文館印刷でございます」

野田原は慌てて受話器をとった。同時に校正途中のゲラが机から滑り落ちた。

「あ、もしもし…野田原さん？」

電話の声は企画営業部の沢地聡志だった。営業部では一番の若手で野田原とは同期の社員である。野田原は沢地の声に安心し早速この状況を説明しようとしたが、咄嗟に沢地の声がそれを阻止した。

「ちょお、ホンマ何してはるんすか、飛行機出ますよ…！
何で会社におるんすか！」

「ひ、飛行機…」

「そう、飛行機…」

「……沢地君、今日有給？…どこ行くの？」

「ちょお、ホンマ何言うてはるんすか、淳ちゃん意味わからんすわ！……えっ、ひょっとして今日から社員旅行やいの知らないんすか…っちゅうか聞いてないんすか！！」

澤地の言葉に野田原は、そういえば最近社員旅行もなかったし、そろそろとは思っていたけどやっぱりそう来るか…ふっ、なかなかのサプライズだぜ…という感じになりかけてから慌てて我にかえり、かなりタイミングをずらしてから状況を把握した。

「え〜……えっ、え〜……、…何それ…ちょっ、ちょっと待って、いっぺんちょっとゲラ拾うわ……ほんでちょっといっぺん椅子にすわってか・ら・の、え〜……」

「ちょお、ホンマ何言うてはるんすか、ちょっ、ホンマに、もう、なんかもうチェ・ホンマンみたになってますやん……、ちょっ、ホンマ何なんすか。」

「ってか今日ふつうに火曜日やし……昨日まで普通に営業してて今日から急に社員旅行って何かおかしくなくなかねえ？
どういこと…？」野田原は少しトリップしている…。

「え、近藤さんから連絡なかったですか…」

「さ・ら・に、え〜……、近藤さん今日休みやって…、ってか今朝、分けのわからん電話してきて昨日も休んだって言うてたし、俺も昨日休みやったから何も聞いてない…」

「…ああ〜」

「ちょっと待ってよ！その自分だけ納得したみたいなの、何それ…」

「そしたら、田和さんからも何も聞いてないですか…」

「聞いてない！！」

「…ああ〜」

「だから一人で納得すんなって…」

「……そしたら野田原さん、もう搭乗の時間なんで…、また電話しますわ！！」

澤地からの電話は切れた。

とりあえず野田原は、朝寄ってきたコンビニの袋に入っていたお楽しみスクラッチカードを削るしかなかった。

(つづく)

遊文舎がお届けする超特急印刷サービス

最短
3時間
で印刷!
すぐスール
suguru.com

すぐスール

検索

<http://www.yubun.co.jp/>

お問い合わせ・ご相談はこちら

電話



0120-132394

E-mail

suguru@yubun.co.jp

受付時間

平日9:00~18:00 (土・日・祝日、年末年始を除く)

編 集 後 記

この遊文通信もおかげさまで10号を発行することが出来ました。「継続は力なり」を信じて、ホットな面白い情報をこれからも発信して参ります。ご声援のほどお願いします。

(Dandy)

次回、
News Letter
Vol.11を
おたのしみに!

